

舎羅林山 展望の岩場からの眺望



高代寺山
488m

振野山
547m

妙見山
660m

天台山
640m

川西市初の景観上重要な建造物として指定された「東多田 夢勝庵」

九頭大明神



白漆喰の土塀 (江戸後期～明治頃)

九頭の社の由来



九頭の社の由来

清和源氏の祖源満仲公が天禄元年(九七〇)横津の国守に任せられたとき、住吉大神のお告げに、よつて矢を放ちました。住吉大神のお西北にある河水をたえた湖に光を放つて、一頭に当りました。住む雄雌二頭の竜の内、山を突破り、湖水は鼓を打つような音をたてて、滝となつて流れ出ました。湖水の水は、多くのお田畑が出来ました。村人等は九頭竜のお蔭で、田畑のひらかれたのを感謝し、九頭明神とあがめ、おまつりしたので、このお社です。御神体の御霊は、九ツの霊石をお祀りして、首から上の病にきく神として信仰され、頭痛、歯痛、眼の病にきく神として、信えられ、最近、はる人知れず、おまつり、頭のよくなるようにと、祈る者たちのおまつり、頭のよくなるようにと、九頭龍の、ありがたや願いをここに、神の靈驗あらたなりりり、読人不知

附 突破つて逃げた一頭は、小戸神社の境内に、白竜社としてまつられています。また、対岸の部落は、矢問といいますが、満仲公が放たれた矢を問、いながら訪ねてこられたので、矢問と名付けられました。

福本賀弘記